

編集後記

本年も1月号は建設機械特集です。大きくてパワフルな重機が、人力では不可能な作業を可能にし、大規模なインフラ建設や、鉱工業、農林水産業を支え、災害時の復旧工事で活躍してきました。一方、大きくてパワフル故に、環境への影響や、事故の危険性が課題でしたが、現在は、最新のデジタル技術によるAIや目、耳によって、周囲の状況を感じて事故を回避できるだけでなく、無駄を減らし、正確に施工できるようになり、重くて大きい“重機”から、“スマートな建機”になりました。近年、労働力不足、資源の枯渇と高騰、新規造成が減少しており、より一層、正確で効率的で安全な施工が行える工法と建設機械が求められています。日本は地層が複雑で気候も変化に富んでおり、工法や作業機械は独自の工夫が求められます。今月で阪神淡路大震災から30年になります。金井会長のご挨拶にありますように、災害復旧では、建機の早期稼働が鍵となります。また、“交流のひろば”にて述べられたように、私達の孫の孫の代まで考えなければなりません。今後も、建機は、大切な人達を守り、災害で困っている人を助け、実り豊かで、美しい国土と海と空を貴重な資産として未来

へ残す守り手になるでしょう。

1月号の行政情報は、ロボット大賞受賞の技術の紹介および建設機械の電動化促進事業について紹介いただきました。特集報文は、油圧ショベルのAIを活用した安全技術、ミニショベルの作業性能向上、ハイローダの生産性向上と安全向上、マイニング向けモータグレーダの生産性向上、油圧ショベル解体仕様機の作業性能・安全性向上、災害復旧用小型移動式クレーンの省力化・事故リスク低減、路面切削機の作業レポートの自動作成システム、クローラキャリアの土砂運搬可視化システム、クローラドリルの簡素化・自動化、電動のショベル・ハイローダ、小型建設機械のバッテリ式電動化、フル電動ラフテレーンクレーンの様々な最新の技術を搭載された建設機械を紹介いただきました。交流のひろばでは、有機農業と地域交流を紹介いただきました。ずいそうでは、カブセルトイの魅力、フリースタイルカヤックを通した活動を紹介いただきました。

最後に、ご多忙にもかかわらず、ご寄稿いただきました執筆者の皆様やご尽力をいただきました関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。本号が今後の建設機械施工の一助となれば幸いです。有難うございました。

(田島・室谷)

2月号「900号記念、土工事特集」予告

・建設現場の見える化により更なる省人化を目指すICT施工StageⅡの試行工事を開始・国土強靭化年次計画2024・全国の多種多様な都市計画のGISデータが利用可能に・場所打ち杭・地中連続壁の掘削形状の3次元可視化技術・カルシア改質土の混合を効率化するカルシアパケットの開発・ICTを活用した大規模造成工事の施工事例・デジタルツインプラットフォームについて・地質3次元可視化による掘削支援システムの開発と生産性向上・環境負荷低減に寄与する地盤改良技術・地盤改良の施工管理高度化へ、ジェットグラウトにマシンガイダンス・成瀬ダムで試験要員を9割削減しつつ、CSG材全量の品質管理を実現・地中連続壁工法における安定液の品質管理自動計測システムの開発

【年間定期購読ご希望の方】

- ①書店でのお申し込みが可能です。お近くの書店へお問い合わせください。
 ②協会本部へのお申し込みは「年間定期購読申込書」に必要事項をご記入のうえFAXをお送りください。
 詳しくはHPをご覧ください。

年間定期購読料（12冊） 10,032円（税・送料込）

建設機械施工

第77巻第1号（2025年1月号）（通巻899号）

Vol.77 No.1 January 2025

2025（令和7）年1月20日印刷

2025（令和7）年1月25日発行（毎月1回25日発行）

編集兼発行人 金井道夫

印 刷 所 日本印刷株式会社

発行所 本部 一般社団法人 日本建設機械施工協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話（03）3433-1501；Fax（03）3432-0289；<https://jcmnet.or.jp/>

施工技術総合研究所 〒417-0801 静岡県富士市大渕3154

北海道支部 〒060-0003 札幌市中央区北三条西2-8

東北支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町3-4-18

北陸支部 〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1

中部支部 〒460-0003 名古屋市中区錦3-7-9

関西支部 〒540-0012 大阪市中央区谷町2-7-4

中国支部 〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22

四国支部 〒760-0066 高松市福岡町3-11-22

九州支部 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-4-30

機関誌編集委員会

編集顧問

今岡 亮司 加納研之助

後藤 勇 新開 節治

関 克己 田中 康之

田中 康順 中岡 智信

渡邊 和夫 見波 潔

編集委員長

中野 正則 日本ファブテック（株）

編集委員

吉田 真人 國土交通省

大津 太郎 農林水産省

内海 友介 (独)鉄道・運輸機構

岡本 直樹 (一社)日本機械土工協会

丹 秀男 鹿島建設（株）

赤坂 茂 大成建設（株）

藤井 攻 清水建設（株）

桐山 茂雄 (株)大林組

出口 明 (株)竹中工務店

宮川 克己 (株)熊谷組

松本 清志 (株)奥村組

京免 繼彦 佐藤工業（株）

加取 新 鉄建建設（株）

副島 幸也 (株)安藤・間

松澤 享 五洋建設（株）

那須野陽平 東亜建設工業（株）

佐藤 裕 日本国土開発（株）

丑久保吾郎 (株)NIPPO

室谷 泰輔 コマツ

山本 茂太 キャタピラージャパン

花川 和吉 日立建機（株）

丹治 雅人 コベルコ建機（株）

漆戸 秀行 住友建機（株）

大竹 博文 (株)加藤製作所

田島 良一 古河ロックドリル（株）

鈴木 健之 施工技術総合研究所

事務局

(一社) 日本建設機械施工協会